

都市計画 マスター プラン

ニュース レター

第6号

1998年5月13日発行

第4回『都市計画マスタープラン勉強会』が
去る3月24日(火)午後6時より、市民会館
で開催されました!(出席者:26名)

勉強会も、ついに最終回を迎えました。今回はこれまでの勉強会の総括と札幌市の今後の取り組み方針について説明しました。本号では当日の説明内容を中心にお伝えします。

◎今回のテーマは“まとめ”～来年度以降に向けて～

昨年12月から開催してきた都市計画マスタープラン(以下『都市マス』)勉強会も、いよいよ最終回となりました。今回は最終回として、まず、これまで(第1～3回)の勉強会を簡単にふりかえりました。

次に、札幌市が来年度(平成10年度)以降、都市マスの素案作成にあたって、どのような考え方をとりながら計画づくりを進めていくのかを説明しました。

そして最後に、策定スケジュールや市民参加の方法等、今後の取り組み方針について説明しました。

◎これまでの勉強会をふりかえる

ここでは、ニュースレター(第3～5号)などを見ながら、これまでの勉強会の模様をふりかえりました。また、各回ごとに、勉強会の内容を検討していた段階での札幌市の考えや、その結果についての感想・反省などについても話していきます。

- 勉強会のテーマと内容 -

- 札幌市の考え(←)と反省(→) -

第1回勉強会(平成9年12月9日(火))
テーマ「顔合わせ」
説明＝「勉強会の目的」、「都市マスって何?」
自己紹介＝30秒スピーチ(参加の動機など)
グループディスカッション＝「勉強会に関して」、「まちづくりに関して」

← 1回目でいきなりグループディスカッションを行った意図は、「勉強会を行っていく上で、参加者のみなさんの関心がどういところにあるのか確認したかった」という点と、「みなさんと市が直接話し合う場を設けたかった」という点にありました。

→ 今回の勉強会は、都市マス策定の前段階に実施したものであり、みなさんとの協働の第一歩として行ったものでした。しかし、この勉強会の主旨がよくわからないという意見が出るなど、我々として、うまく伝えられていない部分があると感じました。その部分を埋めていくにはどうすればよいか、ということを考えながら2回目、3回目を行いました。

第2回勉強会(平成10年1月29日(木))
テーマ「都市計画の流れを知ろう」～情報提供を中心に～
説明＝【質問・疑問】に答える
＝【しくみ編】「都市計画法」、「まちづくりの流れ」
＝【内容編】「札幌の都市計画」、「長期総合計画のポイント」
＝【都市マスの考え方】の紹介

← 1回目のグループディスカッションで、200以上もの意見等が出て、しかもテーブルごとにしっかりまとめられました。そこで、都市マスにつながる内容を意識しながらさらに考えを深めていくことが有意義であると考えて、2回目は都市計画に関する各種情報提供を行い、そのことをふまえて3回目でさらに掘り下げた討論を行ってはどうかと考えました。

→ 勉強会終了後のアンケートでは、説明がわかりにくいといった声が多く、都市計画についてわかりやすく説明することの難しさを痛切に感じました。今後、都市マスをまとめていく上では、いかにわかりやすく提示するかが課題の一つであり、市民と行政が共有する計画とするためにも、非常に重要なことであると認識しました。

第3回勉強会(平成10年2月24日(火))
テーマ「もう少し深く知ろう」～グループディスカッションを中心に～
グループディスカッション＝5つのテーマ設定のもとに討議
A:住宅・住環境その1(高齢・福祉含む) B:その2(まち並み・景観含む) C:自然・公園 D:交通・道路 E:都市計画の考え方
やしきみ

← これまでの勉強会をふまえて議論を深めていくための枠組として、5つのテーマを設定してグループ分けを行い、議論しました。

→ 議論を掘り下げていったことにより、様々な視点が出され、いくつかの意見の相違点も出ていました。また、市民の主体的な取り組みの必要性と、それを支える行政の役割の重要性について、多くの意見が出ていました。これについては、我々としても、今後、特に重要であると考えています。

第4回勉強会 “まとめ”～来年度以降に向けて～

プログラム

1 本日のプログラムの説明

2 これまでの勉強会をふりかえる

3 都市マスづくりにあたっての
考え方
実際のまちづくりでの
展開イメージ
都市マスの考え方

休憩

4 来年度以降に向けて
都市マスの策定スケジュール
市民参加・情報提供の方法

◎都市マスづくりにあたっての考え方

ここでは、来年度(平成10年度)以降、札幌市が都市マスの素案づくりにあたって、どのように検討を進めていくのかを説明しました。これは、勉強会で出された数多くの意見を十分に踏まえた上で、実際の計画へと結びつけていく過程で、どのような考え方をたどって作業を進めていくのか、そしてその過程で多くの意見がどのように反映され、あるいは加工されていくのか、その作業の一端を事前に明らかにしておきたいという意図から説明したものです。また、説明は、「わかりやすさ」と「詳しさ」の両面を配慮し、二つの形態をとって行いました。

説明1 実際のまちづくりでの展開イメージ ~ 寸劇 ~

これまでの勉強会で実際に出された意見をいくつか取り出し、これをもとに実際のまちづくりへの展開を想定した物語をつくってみました。これは、まちに関わる様々な主体や立場の異なる人たちが、それぞれの考え方をもつなかで、具体的なまちづくりがどう進んでいくのかを、わかりやすくイメージしてもらうために試みたもので、説明は、寸劇形式で行いました。

寸劇のあらすじ

都心の周辺のある地域で・・・状況設定

これまで、平家や2階建てばかりだったところに、高層マンションがどんどん建ってきました。

1 何やら住民が立ち話をしています……………問題の指摘と提案

住民が様々なまちづくりの問題を言い合っています。景観の問題、駐車場の問題など…。
住民のひとりが「マンションが建つときに、空地の提供を義務づけてはどうか」と提案します。

2 いろいろな立場の人の登場です……………見方の違い

そこで、建築業者、地権者、札幌市の方々が登場します。
建築業者:我々は建築基準法を守ってやっている。突然高層マンションが建とうが、景観に統一感がなからうが、住民にいわれる筋合いはない。住宅の価格を抑えるためにも経済原則優先だ。
地権者:人の土地に勝手なことをいわれては困る。仮に空地をとったとして誰が維持・管理するんだ。そもそも高層マンションの何が悪い。
札幌市:中高層マンションの指導要綱などをつくって指導しているのですが…。

3 地域のみみんなで夢を描こう……………まちづくり案の作成

なかなか住民の希望は一筋なわけでは通らないようです。
何らかの義務づけをする前に、地域のみみんなが望むまちのイメージを描いてみることにしました。そのイメージを専門家に絵にしてみました。

4 実現化への道……………制度化、事業化

まちのイメージのうち、大事なところを地区計画で制限しようとしたが、地域の権利者全員の同意が得られず断念。
しかし、あきらめず古いアパートをもっている大家さんがたに頼んで、イメージどおりの建替が、少しずつ進むことになりました。

5 まだまだつづきますよ……………まちづくりの展開

まちづくりは建物などができればすべて完成でしょうか?
住民B:これからは、「お互い助け合える、あたたかいまち」にしていきたい。そのためにも、福祉とか教育とか、いろいろな問題を地域で定期的に話し合っていきたいよ。



住民A:低層地区に高層マンションが立つというのは何とかならないのか。
住民B:駐車違反が多くて困っている。
住民C:雪捨て場がなくて困っている。
住民D:景観に統一感がない。みんなバラバラ。



専門家:住民の方の夢を絵にまとめてみました。中通りでは、基本的に5階建以下の建物とし、狭い仲通りに圧迫感を与えないように、かつ、木を植えるなどして、中通りの景観を統一していきたい。そういう案です。

太字の部分は、勉強会で出された意見です。

寸劇は、わかりやすさを重視したことから、話しの展開を単純化したり説明不足の部分もありました。また、内容も、身近な住環境の問題に関わるものであり、都市マスでは、地域別構想に深く関係するものです。

ここでは、都市マスの全体構想について、今後、どのような考えで都市マスの素案づくりを進めるのか、その過程を詳しく説明しました。

前提条件 ~ 都市における3つの基本的な課題 ~

都市計画を考える場合の前提として、都市がもつ次の3つの基本的な課題について、それぞれに相反する2つの事項の調整が必要となります。

「利便性」と「快適性」:(例)利便さを追求すれば、日照や静けさといった要素の確保が難しくなる。

「全体の利益」と「個の利益」:(例)利便性の高い場所を高度利用し、そこに低価格の住宅を供給することは多くの利益となるが、一方で、低層の住環境の維持を望む人もいる。

「都市活動(企業)」と「都市生活(市民)」:(例)企業の経済活動は都市にとって不可欠の要素であるが、例えば工場の立地が、周囲の住環境の悪化をもたらすことがある。

これらの調整には、一定の法則はなく、常に総合的な視点からの検討にもとづく判断が必要です。さらにその判断基準も時代とともに変化していくといえます。都市マスも、この基本課題を念頭におきながら検討作業を進めていきます。次に、その作業の進み方を説明します。

検討作業

骨格要素の配置検討

都市には、住宅地、商業地、工業地、道路、公園など、骨格となる要素があります。これらは、必要な量を確保するとともに、要素相互の関係を考慮して適正な配置、組み合わせを検討する必要があります。

検討にあたっての視点

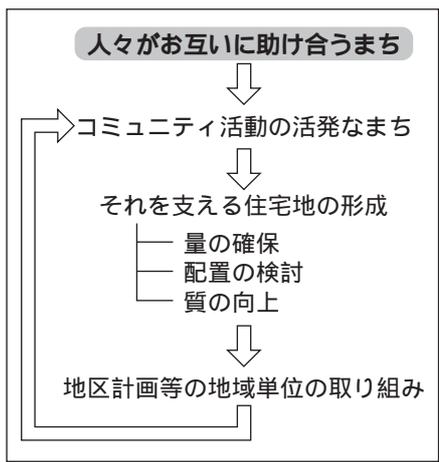
検討にあたっては、安全性、利便性、快適性、活気、個性など、多くの視点があります。どの視点についても、それぞれに質の向上が求められますが、それをどの程度まで求めるか、対立する視点相互の調整をどうするか、何を優先させるかなどを、総合的に判断する必要があります。

計画づくりやその実現化を支えるしくみ

一方で、情報提供の手法や市民と行政との協働のあり方なども、重要な検討事項です。これらは、都市マスの内容(都市計画の内容)だけでなく、まちづくり全体を支えるしくみとして重要です。

具体例

以上の検討作業の流れを、例として、勉強会で出された一つの意見を取り出して説明してみます。



「人々がお互いに助け合うまち」というカードについて展開してみると、

ひとつに「コミュニティ活動の活発なまち」、という住宅地像が想定されます。

そのために、都市計画としては、まず、それを支える住宅地の形成を図る必要があります。具体的には、必要な住宅地量を確保し、適正な配置を検討するとともに、質の高い住宅地の形成を目指します。そして、これらの検討にあたっては、他の骨格要素(商業地、工業地など)との関係や、各種の視点(安全性、快適性など)間の調整に配慮する必要があります。

さらに、地域単位の身近な住環境整備へ検討が進み、例えば地区計画の導入へと結びつくことも想定されます。そして、それに向けた地域の取り組みは、一方でコミュニティ活動の展開につながるようになると思います。

以上のように二つの形態をとりながら、今後の素案づくりにおける検討作業の流れの一端を説明していましたが、ここで特に伝えたいこととして、次のようなことがあります。

勉強会で出された意見は、都市マスの全体構想に強く関わる意見、地域別構想へとつなげていくべき意見、まちづくり全体のすすめ方(しくみづくり)に関する意見など、様々な関係性をもっていること。

都市計画の検討にあたっては、常に総合的な視点から、様々なことからの関係を整理、調整していくことが求められること。

そのため、勉強会で出された意見も、それらをしっかりと読み解き、総合化する作業が必要であり、十分な時間をかけた検討の中で、加工されていくという過程をたどるものであること。

もちろん、素案作りにあたっては、勉強会の成果だけでなく、他の方達の意見や市内部の調整など、各種の事項を踏まえて検討していく必要があります。

来年度、都市マスのたたき台を示すときには、どのような判断でそれをまとめていったのか、その検討過程も示していきたいと考えています。

◎来年度(平成10年度)以降に向けて

今後の取り組み方針について、市より説明しました。

報告書の作成

今回の全4回の勉強会についてまとめた報告書を作成し、参加者の皆さんにもお渡しします。時期としては、6月頃を目指したいと考えています。その内容について、質問や意見などがあれば、また、札幌市に投げかけてもらいたいと思います。そして、最終的に都市マスをまとめるときには、そのやりどりの過程もあわせて、例えば資料編の中にまとめるかたちで、記録していきたいと考えています。

意見交換の場の設定

平成10年度の後半を目標に、都市マスのたたき台づくりを進めていきます。そのたたき台の内容がある程度まとまった時点で、市民のみなさんにその内容や、検討の過程について説明し、意見交換等を行う機会を設けたいと考えています。

◎会場から

勉強会全体をふりかえって、会場からもたくさんの意見が出されました。いくつかご紹介します。

今回(第4回)の勉強会について

「都市マス作りにあたっての考え方」の説明は、教科書的であり、きれいに過ぎて本当にそれでうまくいくのか疑問だ。一番重要なのは、これまでの都市計画を見つめ直すこと、つまり都市計画法の制度やしきみ、運用の仕方に対する施策担当者自らの反省・分析ではないか。

「人々がお互いに助け合うまち」という意見カードの展開例の説明は、都市計画という部分への関連ばかりが強く、「助け合い」や「コミュニティ」というソフトな部分の視点が落ちていたように思う。都市計画部局だけでなく、他の部局との連携のどりかたといった部分が出てくれれば、意見を出した参加者も安心できる、納得できる説明になったと思う。

全体を通じて

今回の勉強会では、事務局である市の方々の熱意といったものを感じた。会の内容には不満もあるが、どのようなところが良くなかったのかを考える一歩としては、重要ではなかったかと思う。

都市マスの策定前に、このような会を行うことは素晴らしいことだと思う、「わかりやすさ」を考えることも重要だと思う。しかし、策定前に行う議論としては、今までの都市計画はどうだったか、これからの都市計画はどのようなのかを考えるという形で、論点を明確にしたほうが良かったのではないか。

◎最後に札幌市から

今回の勉強会は、都市マスの策定前に、たたき台もなしに行いました。前例のないことでもあり、正直どのように勉強会を進めていくのが有効なのか、常に悩みながら進めてきました。

ふりかえってみると、みなさんの意見をしっかり受けとめて整理することや、これまでの都市計画を評価することなど、一つ一つをきちんと積み重ねていくことの重要性を再認識した勉強会でした。また、これからの情報提供をどう行うか、みなさんとのやりとりをどう進めていくかについても、しっかり考えていく必要があると感じました。これらのことを確認できたことは、我々にとって、今回の勉強会の一つの成果であり、また課題でもあると思っています。

「札幌を素晴らしいまちにしたい。そしてそれを後世に残したい。」という思いは、我々もみなさんも同じだと思います。この勉強会を、市民と行政の新しい関係づくりの第一歩と位置づけ、今後も取り組みを進めていきたいと考えています。

メイリングリストへの登録は現在でも受け付けています!

このレターは、登録者へは直接郵送しています。まだ登録されていない方は、どうぞご登録ください。
詳細:パンフレット「21世紀の魅力ある街づくりをめざして。」

ご意見募集:都市計画マスタープラン勉強会に対するご意見などは、郵送かファクスで下記までお寄せください。

〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市企画調整局計画部都市計画課土地利用係

電話 011-211-2506 ファクス 011-218-5113

参加された皆様、本当にありがとうございました。

札幌市都市計画課